

# 宝塚エネルギー2050ビジョン(案)

「みんなで作ろう 宝塚エネルギー」

～再生可能エネルギー・省エネルギーで たからづかを もっと ずっと げんきに～

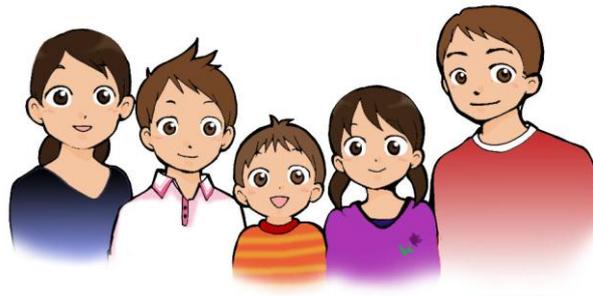


平成26年（2014年）10月  
宝塚市

## 目次

はじめに「宝塚エネルギー」のある暮らし.....	4
<b>第1章 ビジョンの基本的事項.....</b>	<b>8</b>
1.1 再生可能エネルギービジョン策定の背景.....	8
1.2 ビジョンの位置づけ.....	11
1.3 ビジョンの対象期間.....	12
1.4 対象とするエネルギー.....	13
1.5 ビジョンの構成.....	14
<b>第2章 宝塚市の現状.....</b>	<b>15</b>
2.1 本市の地域特性.....	15
2.2 エネルギー利用の特性.....	17
2.3 本市の再生可能エネルギー関連施策と取組.....	18
<b>第3章 再生可能エネルギー政策の目的と将来像.....</b>	<b>19</b>
3.1 再生可能エネルギー政策の目的.....	19
3.2 再生可能エネルギーの導入方針.....	21
3.3 再生可能エネルギーの利用の推進による将来像.....	24
<b>第4章 再生可能エネルギーの利用可能性.....</b>	<b>26</b>
4.1 賦存量・利用可能量とは.....	26
4.2 再生可能エネルギー等の賦存量.....	27
4.3 再生可能エネルギー等の利用可能量.....	28
<b>第5章 エネルギー政策の目標.....</b>	<b>31</b>
5.1 目標設定の考え方.....	31
5.2 長期目標値の設定.....	35
5.3 チャレンジ目標の設定.....	42
<b>第6章 目標達成に向けた各主体の役割と協働.....</b>	<b>49</b>
6.1 推進体制と各主体の行動.....	49
6.2 協働の進め方.....	51
<b>第7章 モデル事業の進め方.....</b>	<b>53</b>
7.1 モデル事業とは.....	53
7.2 各モデル事業の概要と進め方.....	54
<b>第8章 対象毎の推進支援策パッケージ.....</b>	<b>57</b>
8.1 推進支援策パッケージ.....	57
8.2 推進支援策の整理.....	70
<b>第9章 市の責務.....</b>	<b>74</b>
9.1 市及び再生可能エネルギー担当部署の責務.....	74

9.2 進行管理 .....	76
策定の経緯等 .....	77
用語集 .....	79



すみれファミリー



宝塚市政マンガ広報キャラクター

「たからづかキッズ」キャラクター

春野すみれ（中央）とその兄（右側）と弟（左側）

設定：春野すみれ（中学2年生）

父母、兄（高校1年生）、弟（小学3年生）

## はじめに「宝塚エネルギー」のある暮らし

これは、すこし未来の『わたし』が「みんなで作ろう宝塚エネルギー」を見つめたなお話です。

本市の再生可能エネルギーについてのビジョンを策定し、実践を進めていくと、どのようなまちで暮らすことになるのでしょうか。2014年（平成26年）には中学生であった「わたし」が16年後の2030年（平成42年）に30代となったときの暮らしから、その様子を見てみましょう。



~~~~~

花と緑が豊かで、芸術や文化や観光資源にも満ちている宝塚市は、温泉や宝塚歌劇などがあり、充実した交通網により大阪や神戸のベッドタウンとしても発展してきました。そんな宝塚市は、「みんなで作ろう宝塚エネルギー～再生可能エネルギー・省エネルギーで たからづかをもっとずっと げんきに」を合言葉に、自然のエネルギーをかしこく選び、利用してきました。

例えば、いま家族4人で暮らしている家は、太陽光発電で電気を、太陽熱利用システムでお湯を作っています。この家は省エネルギー性能が高くて冬でも十分暖かいのに、一年間で使うエネルギーより作るエネルギーの方が多いうltraエネルギーハウスなんです。快適に暮らせるし、光熱費も安くなっています。エネルギーを使うだけでなく、作ってもいる人をエネルギープロシューマーと言います。エネルギーの消費者を意味するコンシューマーと生産者を意味するプロデューサーを合わせた言葉です。「わたし」の家族もエネルギープロシューマーですし、木質ペレットストーブで冬に暖かく過ごしている友人もそうです。

最近建てられたマンションには屋上には太陽光発電が設置されているものが多いですね。「わたし」の両親が住んでいるマンションもそうです。以前「わたし」が住んでいたマンションには、屋上やベランダに太陽の熱を集めるパネルがついていて、そこでできたお湯をお風呂や床暖房に利用していました。快適なのに光熱費は安くて、自然と一緒に暮らしているうれしさがありました。それから電力の自由化が進んで、使う電気を選べるようになっていましたから、風力発電や小水力発電の電気を選んで買っていました。自分が使う電気を選べるようになって、どのエネルギーに自分のお金が向かうのかを意識するようになりました。

市内の駅周辺に出てみると、太陽光発電や太陽熱利用システムはオフィスビルや商業施設でも当たり前になっています。特に病院や福祉施設のようにお湯をたくさん使う場所では、太陽熱利用システムが増えていきます。外からは見えないけれど、木質ペレットストーブや地中熱を使った冷暖房をしている建物も増えているそうです。そういえば、宝塚市役所は10年も前に再生可能エネルギー

ー100%になっていました。いまでは公共施設はどこでも再生可能エネルギーを取り入れたり、電気を選んで買ったりしています。避難所にも太陽光発電などがある、もしものときにも最低限のエネルギーが利用できるようにして安全・安心なまちづくりをしています。それに、宝塚では景観や美観にも気を配っているので、花や緑も多くて落ち着いた、きれいなまちなみが保たれています。

出かけた時にも再生可能エネルギーを見かけます。駅やバス停にも太陽光発電がついているところがあるし、再生可能エネルギーの電気や燃料で動く電車やバス、タクシーが増えています。レンタカーを利用するときも、再生可能エネルギーの電気で充電した電気自動車を選べます。

宝塚では太陽光発電やバイオマスエネルギーを作り出す事業が地元の人たち中心に進められてきました。「わたし」もそこに投資の形で参加しています。寄付ではなくて投資なので、出したお金がきちんと返ってくるかどうかはリスクがあって迷ったけれど、「わたし」が出資した事業はきちんと運営されています。その事業では、投資に対して 10 年間で少し増えて手元に戻ってきました。宝塚でエネルギーを作る事業をお金を使って応援できるわけだし、経済的にもうれしい仕組みです。もちろん、事業が失敗する可能性もあるから自分できちんと判断した上でのことです。

「わたし」が通っていた学校にも、「わたし」の子どもが通っている学校にも太陽光発電があります。学校では環境やエネルギーについてもくわしく教えてくれていて、たまに「わたし」が子どもから教わることもあるくらいです。図書館でも環境やエネルギーをわかりやすく説明した絵本や本があるし、市内の児童館に行くと太陽光発電でプロペラがまわるヘリコプターのおもちゃがあったり、小さい頃から環境のことを考えるきっかけがありました。公園でも色んな再生可能エネルギーが見られたり、再生可能エネルギーの展示がされた環境ハウスがあったり、親子で目に触れる機会がたくさんありました。

子どもはいつか再生可能エネルギーに関わる仕事をしたいと言っていますが、色んな仕事があってまだ選べないようです。今住んでいるような家を作る建築士や施工会社もいいし、新しい技術や仕組みを考える研究者もいいし、宝塚でエネルギーを作って送る新しいエネルギー会社もいいなって。宝塚では再生可能エネルギーを仕事にする人が増えて、経済の活性化にも役立っているんです。知り合いの中にも、北部で農業をしながら、バイオマスエネルギーを利用して燃料代を減らしている方や経済効果を得ている方もいます。

再生可能エネルギーって最初はあまりよくわからなかったんですけど、今は当たり前で毎日活用しています。わからないことがあったら市の再生可能エネルギー相談窓口に聞けるから、今の家を建てる前にも相談しました。それに色んな NPO が再生可能エネルギーに関する活動やイベントを行っているの、基本的なことから専門的なことまで知識や情報が手に入るし、子どもと一緒に学ぶイベントにも参加して知り合いも増えました。「わたし」の両親も退職後に NPO をお手伝いしていて、若い方や子どもと触れ合うことでますます元気に活躍しています。インターネットには再生

可能エネルギーマップがあって、市内のどこにどんな再生可能エネルギーがあるのか、困ったときは誰にきけばいいのかもすぐわかります。

「みんなで作ろう宝塚エネルギー」という合言葉のもとで、宝塚では市民と行政が協働してたくさんの方の活動を行い、それに参加する人が増えてきました。「宝塚エネルギー」という言葉には、宝塚で作られたエネルギーやエネルギー会社はもちろん、エネルギーに関する取組やそれに参加するみんなの活力という意味含まれています。だから、NPO の活動やイベントに参加すること、子どもと一緒にエネルギーについて学んだり遊んだりすること、再生可能エネルギーを使ったり選んだりすること、地域の再生可能エネルギー事業に出資すること、地域の再生可能エネルギーを仕事にすることもすべて「宝塚エネルギー」をつくっていくことです。



2050年（平成62年）までの宝塚には大きな3つの目標があります。より多くの方が「宝塚エネルギー」に参加する事で、この大きな目標もきっと実現できます。そして宝塚のまちがもっと、ずっと、元気になるはずです。

- ・わたしたちの住む家で使う電気や熱（お湯や暖房など）の半分は宝塚の再生可能エネルギーでまかなうことをめざしています。
- ・家やビルや学校や工場で使う電気や熱は再生可能エネルギーで作ったり買ったりしてまかなうことをめざしています。
- ・再生可能エネルギーで動く自動車やタクシー、バスや電車をみんなが気軽に利用できるようにすることをめざしています。

こんな宝塚に住むために

ここで示したような将来の宝塚に住むためには、本市の特性に合わせた再生可能エネルギーに関する施策や取組をどのように進めていくのかを考える必要があります。また、人づくりやまちづくりも同時に推進することになります。本市の再生可能エネルギーの利用の推進についてのビジョン（以下、本ビジョン）を通じて、どのような施策や取組、人づくりやまちづくりを進めていくのかを定めていきます。

